

北上市ごみ減量市民会議ニュース

～第2回 テーマ別に検討がはじまりました の巻～

10月29日の18時30分から、北上市生涯学習センター第1学習室で、第2回のごみ減量市民会議検討委員会が開催されました。

○今年度の到達点

- ・市民としてできること、そして企業・行政に対して行ってほしいことをまとめ、
- ・ごみ減量活動が継続的にできるように、より多くの参画者を集め、行動に移す

○本日の到達点

- ・テーマごとに、今後検討する内容を検討し、実施計画をつくる

<当日のスケジュール>

I. 開会

挨拶 照井民太郎さん（ごみ減量市民会議会長）

II. 今年度の進め方・今後のスケジュールの説明

III. グループ分け

「ごみ減量の意識啓発」「リサイクル推進」「ごみステーション・ごみの出し方」「ごみの減量化」の中から、各参加者はテーマを選択し、グループをつくりました

IV. グループワーク

- ・それぞれのテーマの現状と課題点を考えてみる
- ・課題に対しての対策を考えてみる
- ・対策が実行されるための計画づくり
- ・今年度の到達点と次回までの宿題の確認

V. 成果発表 作成した成果をグループごとに発表

VI. 閉会



<グループワークの内容>

参加者それぞれが選択した「ごみ減量の意識啓発」「リサイクル推進」「ごみステーション・ごみの出し方」「ごみの減量化」の4つのグループで議論を重ねました。

議論は、はじめに北上市のために各グループのテーマが達成されるために「増やしたほうがよいこと」、「減らしたほうがよいこと」を検討しました。この検討は、現在の北上にある目に見える課題、目には見えない課題を考えることを目的としています。

次に実際にそれが増えるため、減るための具体的な方策を違う色の付箋にはり、実際の課題と対応をさせました。

この課題と実際の方策が出た中で、実際に各グループで取り組みたい内容を3つ選択し、それが実現するために必要なことを検討したのが最後のグループワークです。

活発な議論で、時間も足りないところもありましたが、実際にどのような活動が必要なのか、その検討が深められました。

<グループの参加者>

○ごみ減量の意識啓発 八重樫 奈都子 さん 佐藤 民生 さん 李 新華 さん 高橋 馨 さん	○リサイクル推進 藤田 功 さん 小原 松男 さん 小保内 悟 さん 小原 甫枝 さん 菅原 良 さん
○ごみステーション・ごみの出し方 千葉 茂 さん 小瀬川 泰志 さん 照井 民太郎 さん 伊藤 幸次 さん 三宅 清 さん	○ごみの減量化 小野寺 郁子 さん 斉藤 和香子 さん 高橋 美津男 さん 中舘 輝子 さん 門脇 秀夫 さん 桑原 敬二 さん 福知 光枝 さん 星 敦子 さん

<グループの成果>

○ごみに対する意識啓発グループ

テーマ（ごみに対する意識の啓発）が達成されるために	
増やしたほうがよい	減らしたほうがよい
<ul style="list-style-type: none"> ・市は減量に対するPRをもっと増やす ・行政からチラシ、広報で減量のPRする ・地域は減量についての勉強会を開く ・地区のコミュニケーション ・地区は住民に対してPRチラシを配る ・企業は企業内でリサイクルの再考学習の定例化 ・マイバック 【対策】マイバックの種類デザインを良くする ・個人正しく分別 【対策】ごみ百貨を活用させる 【対策】洋服、和服等、食器、電化製品などバザーで処理する方法 ・各地区の交流センター、公民館では「ごみ減量」について意識向上の教育活動展開する 【対策】地区・各班ごとについて対話を繰り返す ・街頭宣伝によるごみ減量化を周知するようにする・ 	<ul style="list-style-type: none"> ・企業の過剰包装 ・企業の商品のパック当たりの数 ・個人の多量調理 ・個人はごみになるような物買わない ・紙コップ等、使い捨て商品を使わない ・個人の生ごみを減らすには

さくら野百貨店や小売大規模スーパーで宣伝活動を展開すること（行政より） ・資源ごみに属するものを細かに分別すること（個人） ・個人は調理の工夫 【対策】調理方法の具体的指導 ・企業はリサイクルへの努力 【対策】具体的な事例を教える 【対策】生ごみは農家や造園業者などとの連携 ・個人はバランスの良い食事 【対策】栄養士さんを活用し講習会を開く	
---	--

対策の中で実施した方がよいことと、実現までに必要なこととは…			
事業	実施に必要なこと	役割	
		市民	行政・企業
地区・各班ごとについて対話を繰り返す	<ul style="list-style-type: none"> 各地区長への依頼 身近な事例を基に学習会を深める ごみ減量の実例をまとめて「出前講座」として各区、自治会 コミュニティセンター長（交流センター）への依頼 		<ul style="list-style-type: none"> 各地区長への依頼 身近な事例を基に学習会を深める ごみ減量の実例をまとめて「出前講座」として各区、自治会に提供
バザーの開催	<ul style="list-style-type: none"> 地区文化祭や小・中・高校など連携をしてバザーで無料提供する 	<ul style="list-style-type: none"> 地区文化祭や小・中・高校など連携をしてバザーで無料提供する 	
リサイクル 生ごみは農家や造園業者などとの連携をとる	<ul style="list-style-type: none"> 認定農業者会に先導してもらう 廃材（材木）建設業者との連携 鉄材・電化製品それぞれの業界との連携 EMの会に指導してもらう 生ごみステーションの設置 		<ul style="list-style-type: none"> 認定農業者会に先導してもらう 廃材（材木）建設業者との連携 鉄材・電化製品それぞれの業界との連携 EMの会に指導してもらう 生ごみステーションの設置
栄養士さんを活用し講習会を開く	<ul style="list-style-type: none"> 栄養士会に協力してもらう 地区毎のスケジュールを作る 		<ul style="list-style-type: none"> 栄養士会に協力してもらう 地区毎のスケジュールを作る

実現に向かって次回までに行うこと（宿題）	
<私たちの宿題>	・分別の身近な事例をまとめる
<事務局の宿題>	・出前講座への計画・立案のための行政との連絡

○リサイクル推進グループ

テーマ（リサイクル推進）が達成されるために	
増やしたほうがよい	減らしたほうがよい
<ul style="list-style-type: none"> 生ごみ処理機購入への補助とPR 【対策】広報等に何度も掲載する 【対策】生ごみ処理機の購入手続きを簡単に グループを増やす（生ごみ） 生ごみ収集の常設ステーション（堆肥化） 生ごみを回収して欲しい 生ごみの堆肥 ごみを細分化 【対策】ペットボトルつぶす 【対策】牛乳パックが簡単に開くことができるようにする 	<ul style="list-style-type: none"> チラシを減らす（自治体も含めて） リサイクルのマークなどをみやすいようにしてもらう 二度三度、使えるものを作ってもらうようにする

<ul style="list-style-type: none"> ・資源回収団体の育成強化 ・再利用できる物は自由に私物として利用する ・資源ごみを置く場所 ・資源ごみの回収日 ・リサイクルできる品物を増やす <p>【対策】 玉子のからをつぶし</p>	
---	--

対策の中で実施した方がよいことと、実現までに必要なこととは…

事業	実施に必要なこと	役割	
		市民	行政・企業
生ごみの回収を行政で行うよう要請する	<ul style="list-style-type: none"> ・先進地の視察 ・市が議会に提案する ・有料化ばかりでなく、市は生ごみの回収を真剣に考えてほしい ・ある地区をモデル地区にしてやってみる 	<ul style="list-style-type: none"> ・排出の約束事項をきちんと守る 	<ul style="list-style-type: none"> ・生ごみ処理場を建設する
ペットボトルを廃品回収(換金)とする	<ul style="list-style-type: none"> ・議会で話し合う(条例を作る) ・議会への説明(各地区の) 		
リサイクルマークを大きく見やすく表示してもらう	<ul style="list-style-type: none"> ・企業への働きかけ 		

実現に向かって次回までに行うこと(宿題)

<私たちの宿題>	・先進地を捜す
<事務局の宿題>	・先進地視察に係る費用等の確認

〇ごみの出し方(場所・時間)

テーマ(ごみの出し方)が達成されるために

増やしたほうがよい	減らしたほうがよい
<p>(ごみの出し方)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・いつでも出したい ・ごみをいつでも出せる場所 【対策】例えばコンビニで受け入れできないか ・出す回数を増やしたい 【対策】24時間集積所の設置 【対策】いつでも出せる ・近くに出したい ・ごみステーションの数を増やす→将来個別収集に 【対策】出せる場所 【対策】生ごみステーション 【対策】回収ボックス公営で作る、地域で管理 <p>(教育)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・地域・職場でのクリーン活動の実施 ・ごみの出し方を良く分かっている人 ・ごみの分け方、出し方の周知 【対策】小・中学校からの指導 <p>(周知)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・アパマンの徹底指導 【対策】アパートに掲示板の設置をする 【対策】ごみ集積所に掲示板 	<p>(市の負担)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・回収の場所を減らしたい(当番) 【対策】スーパーに容器を置いてマイバックに入れてくる <p>(生ゴミ)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・生ごみを減らす 【対策】たい肥化 【対策】生ごみの分別 ・場所をきれいにしたい(不法投棄) 【対策】不法投棄防止看板 【対策】不法投棄防止条例の制定 ・他市町村や店に捨てる人

対策の中で実施した方がよいことと、実現までに必要なこととは…			
事業	実施に必要なこと	役割	
		市民	行政・企業
出せる場所と時間(24時間ステーション)	<ul style="list-style-type: none"> ・お金(予算)をとる ・場所の確保 ・戸別収集の実施 ・集積ボックスのかぎを配布 	<ul style="list-style-type: none"> ・管理の徹底 ・議会に推進派を送り込む 	<ul style="list-style-type: none"> ・回収ボックスを作る ・個別収集の検討 ・コンビニ各店への協力依頼
生ごみの出し方	<ul style="list-style-type: none"> ・各戸で生ごみの分別をする ・生ごみ専用袋(生分解制袋)の準備 ・生ごみの分別回収 ・資源ごみ扱いにする ・砕いて分量の減 ・堆肥置き場の確保 	<ul style="list-style-type: none"> ・生ごみ分別は両者で 	<ul style="list-style-type: none"> ・生ごみ分別は両者で
不法投棄	<ul style="list-style-type: none"> ・県条例を補完する市条例 ・監視・連絡体制の確立 ・24時間捨てる場所を作る 	<ul style="list-style-type: none"> ・全市民でのクリーン活動(教育) 	<ul style="list-style-type: none"> ・監視カメラの設置

実現に向かって次回までに行うこと(宿題)	
<私たちの宿題>	<ul style="list-style-type: none"> ・近所のコンビニの調査 ・生ごみ処理方法について
<事務局の宿題>	<ul style="list-style-type: none"> ・24時間ステーションの有無、費用 ・コンビニ回収の事例 ・生ごみ専用袋の値段 ・不法投棄の実態

〇ごみの減量グループ

テーマ(ごみの減量)が達成されるために	
増やしたほうがよい	減らしたほうがよい
<ul style="list-style-type: none"> ・個々の意識を高めるポスター標語 ・ごみ分別の徹底 ・生ごみステーションを多く作る ・各家庭でのたい肥化 ・生ごみをたい肥にする人を増やしたい ・生ごみリサイクルの量を増やす ・ビン使用を増やす ・繰り返し使えるビン等にする ・マイバック持参の買い物、増やしたい ・マイバック使用者を増やしたい ・個別にして袋等に入れる ・企業と生産者の責任 ・小売店の回収ボックス ・小学児童対象に意識を教育(教える) ・リサイクルや生ごみ処理方法の勉強会、講習会 ・ごみ減量のチラシをたくさん配布(回数を増やす) 	<ul style="list-style-type: none"> ・過剰包装 ・ペットボトルが多すぎる、減らしたい ・過剰包装をさせない ・トレーを減らしたい 【対策】小売店で回収する ・生ごみを減らしたい ・生ごみを減らす努力 ・ごみを買わない 【対策】食材を使い切る 【対策】量を多く作らない 【対策】生ごみステーションを作る ・ごみ事業に係る経費 ・衝動買い、チラシに踊らせない 【対策】メモ書きして買い物へ 【対策】計画買い、買うものをメモしていく 【対策】必要なものを買う

対策の中で実施した方がよいことと、実現までに必要なこととは…			
事業	実施に必要なこと	役割	
		市民	行政・企業
バラ売り(バラ買い)を増やしたい	<ul style="list-style-type: none"> ・店頭でパッケージを返してくる ・バラ売りの店の育成と消費者への宣伝 ・自分で持参した入れ物に食品を入れてもらった人にポイントがつくシステム 	<ul style="list-style-type: none"> ・バラ買いすることを店の人に話してもらう 	<ul style="list-style-type: none"> ・行政より企業に個別に売るよう話をしてもらう ・バラ売り出来るように体制を作る

	<ul style="list-style-type: none"> ・入れ物を持って買い物に行く(マイパック) ・昔の魚屋、八百屋の販売の仕方 ・バラ売り小売店を育てる 		
生ごみを堆肥にする	<ul style="list-style-type: none"> ・たい肥化にする方法の学習会 ・たい肥化のための小単位による講習会 ・100名位のリサイクル集団を作る ・リサイクルシステムを作る、会員制にして農家作物を作る ・生ごみをたい肥化する困難点と対策を考える ・毎日、生ごみの回収 ・小・中学校で給食の残飯を子どもたちでたい肥化実践する、そして畑に返す ・生ごみを入れる物とステーション設置 ・家庭でのたい肥を受け入れる店や農家を指定する 	<ul style="list-style-type: none"> ・生ごみにその他のものを混ぜない ・意識を高める学習会 	<ul style="list-style-type: none"> ・行政に働きかけシステム化する ・生ごみ処理機への補助増額、乾燥機への活用
教育の場で勉強会を開催する	<ul style="list-style-type: none"> ・福読本を作製する ・教育計画の中への位置づけ ・リデュース(抑制)、リユース(繰り返し使う)リサイクルの優先順位を教える 	<ul style="list-style-type: none"> ・家庭でも話し合いをもつ 	<ul style="list-style-type: none"> ・出前講座の押しかけで地域をまわる

実現に向かって次回までに行うこと(宿題)	
<私たちの宿題>	<ul style="list-style-type: none"> ・生ごみを堆肥化するための、私たちの学習と先進事例を調べる ・バラ買い拡大の挑戦
<事務局の宿題>	<ul style="list-style-type: none"> ・生ごみ処理を行政が事業として取り組めるのか ・市民会議委員会委員証のような物を作ってほしい(腕章、胸章など)

<次回の検討内容(予定)>

次回のごみ減量市民会議では、それぞれの宿題を持ち寄って、

- ① 各グループの目的達成のために「私たちができること」をまとめる
 - ② 今年度行うことの計画の完成
- をめざし、議論を重ねたいと考えています。